

種名	<p style="text-align: center;"><u>ギ ン ブ ナ</u></p> <p style="text-align: center;"><u>Carassius auratus langsdorfii</u></p> 
分類	コイ科コイ亜科フナ属
俗称	マブナ(関東)、ヒワラ(滋賀)
形態的な特徴	形態は一般的にいう魚の形で、全長は 30cm ほどになる。コイに似ているが口ひげがない。体色はオリーブ色を基調とした銀白色。
分布	ほぼ日本全土に分布する。
繁殖行動	産卵期は3～7月で、湖面に浮かぶ水草やゴミ、湖岸の水草や水際植物、細流に入り込んで水草や水際植物の茎や葉に卵を産みつける。オスの数が極端に少なく、産卵された卵はモツゴなど他種の魚の精子を刺激剤とし、発生が起きるのでメスのみでも繁殖することができ、雑種にならない。とくに関東以北ではオスは全く見られない。
生息場所	河川の下流域の淀み部分や湖沼で普通に見られ、広範囲の水域に生息している。小ブナなどは水田脇の用水路や小川などでも見られる。
食性	食性は雑食性で底生動物、藻類などを食べる。
生息環境への配慮事項	水深が 10cm 程度で雑排水が流れ込んでいるような都市河川では姿を見ることはないが、水田脇の用水路やため池などには普通に生息している。都市に見られる湖岸がコンクリートで護岸されたすり鉢状のため池でも見られる。本種はとくに減少したという印象はないが、河川改修や水路改修などにより確実に産卵場が減少している。オスがいなくとも繁殖できるとはいえ湖沼沿岸や川岸の植物帯が存在しなければ産卵はできない。そのため春に「フナっ子」を見ることは少なくなってしまった。本種を永続的に保護していくためには水域内の水草、水際植物帯の保全が必要になる。
その他	フナの仲間は姿が似ており判別が極めて難しい。本種の他にキンブナ、ニゴロブナ、ゲンゴロウブナ、オオキンブナ、ナガブナが知られているが、分類には諸説ある。釣りの対象として愛好者が多いゲンゴロウブナの飼育系統(ヘラブナ)は各地で放流されている。
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	